

## を語る 1

### いわみざわ 岩見沢市（北海道）

岩見沢市長 松野 哲まつの さとしる

## ICT活用によるゲートウェイ・シティを目指して 市民生活の質的向上と地域経済活性化に向けた取り組み

### はじめに

岩見沢市は、札幌市や新千歳空港から約40kmに位置し、北海道内を結ぶ主要国道や国内で3番目に開通し、弁慶号や義経号が活躍した幌内鉄道を背景に、周辺産炭地から産出される石炭や肥沃な大地にてはぐくまれる農産物などに関する北海道物流の結節点として発展してきました。

しかしながら、エネルギー需要の転換や農業を取り巻く環境変化に伴い経済活動は停滞し、人口減少や少子高齢化も急速に進んでいる状況にあるなど、「人口減少対策」や「地域経済活性化対策」が喫緊の課題となっています。

### ICTの取り組み

このような地域課題への積極的

対応として、ICT活用による「市民生活の質的向上」と「地域経済活性化」を掲げ、全国の基礎自治体に先駆けて自営光ファイバー網（本年3月現在 総延長19.6km）や冷涼な気候を生かした「環境配慮型データセンター」（平成25年開設）など基盤整備を進めるとともに、小学校全学年の希望者を対象にICTタグを用いた「岩見沢市児童見守りシステム」（平成19年度）など、いわゆる生活直結型サービスの社会実装を進めています。

また、インキュベーター施設である「岩見沢市新産業支援センター」（平成16年開設）や地元企業にて構成するSPC（特定目的会社）整備の「ITビジネスセンター」（平成20年開設）を中心にICT関連企業の新規創業や首都圏などからの企業進出が進んでおり、延

べ680名以上の新たな地元雇用も創出されています。

### スマート農業の推進

現在、経済活性化に関するICT活用として、主要産業の1つである農業分野での新たなプロジェクトを展開しています。

本市は、総面積4万8102ha（481.02km<sup>2</sup>）の41.1%にあたる1万9800ha（198km<sup>2</sup>）の耕地面積を有し（平成26年農林水産省「耕地及び作付面積調査」）、1戸あたりの耕地規模（耕地面積／総農家数）は14.2ha、全国平均1.8haの約8倍となっています。

しかしながら、農家戸数や就業人口の減少が続く、農業就業者の65歳以上の割合も33.3%と高齢化も進展しており、現状のままでの農業の維持・継続には限界があ

ります。

このような課題解決に向け、市内13カ所に設置した気象観測装置にて得られるデータ（ビッグデータ）を基に、投薬や刈り取り時期など農作業の効率・最適化に必要な予測情報を配信するサービスを開始したほか、トラクターなどの農業機械による作業の効率化に向け、市内3カ所に設置したGPS-RTK基地局を用いて高精度な測位情報の配信を開始した結果、作業時間の短縮や農業資材コスト削減など具体的成果が確認されています。

また、北海道大学との連携の下、トラクターの完全自動走行や協調型走行など、農業分野におけるロボット技術導入促進に向けた実証も進めています。ICTとロボット技術の複合的活用によって、農業技術の伝承はもとより、相当の経験値を必要とされる農作業について、若者や女性など多様な人材の就業を促す環境が形成されるものと期待しています。

## 健康コミュニティ構築に向けた取り組み

さらに、超高齢社会に対応するための取り組みとして、健康で快適な在宅生活実現に向け、産学官が有機的に連携しながら地域社会変革を促す新たなプロジェクトを開始しています。

現在、北海道大学を中心に開始された「COI センター オブイノベーション 食と健康の達人拠点」の実証フィールドとして、課題や施策、成果を共有しながら持続的に展開するための体制構築を進めています。



ロボット技術導入検証（完全自動走行の模様）

「プレママから子育てにはじまり高齢者まで、美味しい食と楽しい運動で笑顔あふれる社会の形成」は、地方創生を

進める上においても重要なテーマであると考えられています。

このため、プロジェクトに参画する大学や関係企業との連携の下、地域全体で健康の大切さを認識しながら、健康長寿に寄与する「美味しい食事」「楽しい運動」「就労など社会参加」を促すため、ワークショップ開催など普及啓発を進めるとともに、市民自らが健康状態を把握するための環境（各種検診データ等の蓄積・活用など）に関する検証や検診結果に基づく専門家アドバイスを、生活改善に向けたコミュニティサービスの展開など、健康コミュニティ実現に向けた取り組みを進めています。

## 地方創生に向けて ICT活用による ゲートウェイ・シティ

このように、本市では人口減少が社会面、経済面に及ぼす課題克服に向け、さまざまなICT活用を進めています。

例示した農業分野や健康分野以外においても、例えば、豪雪地帯特有の課題に対し、詳細な気象データの活用や除排雪作業の効率化に寄与するICT利活用、子育

て中の女性などを対象とした新たな在宅就業スタイル構築など、市民生活や経済活性化に関するさまざまな施策を展開しています。また、これらは現在、策定を進めている「岩見沢版総合戦略」においても重要かつ具体的施策として位置付けていきます。

今後も、産学官連携による地域課題克服に向けた取り組みを通

## プロフィール

- ◆ 面積 481.02km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 8万5319人
- ◆ 世帯数 4万2177世帯

〔将来都市像〕人・地域が輝く 緑と活力に満ちた文化都市

〔まちの特徴〕北海道の中央南西部に位置し、空知地方の行政・産業経済・教育文化などの中心都市

〔市町村合併〕平成18年3月27日、北村、栗沢町を吸収合併

〔特産品〕米、玉ねぎ、白菜、キジ料理、こぶ志焼（陶芸、ゆあみさわ（純米酒）、



岩見沢市長  
松野 哲



〔イベント〕いわみざわ彩花まつり、JONAVLIM、きたむら田舎フェスティバル、くりさわ農業祭、ふるさと百餅祭り、いわみざわ情熱フェスティバル、IWAMIZAWAドカ雪まつり

ワイン、かぼちゃ焼酎  
〔観光〕いわみざわ公園バラ園、北海道グリーンランド遊園地、宝水ワイナリー、野外音楽堂キタオン、メープルロッジ

じ、「大学・研究機関の知見」や「関連企業のビジネスリソース」がさらに集積され、地域実証によりサービスの具体化を図るとともに、本市のみならず国内外を視野とした新たなビジネス創出を期待するなど、従前の道路・鉄道による結節点機能からICTを用いたゲートウェイ・シティとして展開してまいりたいと考えます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「住んで良かった」「住み続けたい」 まちを目指して

### はじめに

白井市は、千葉県西北部、東京都心と空の玄関・成田空港からそれぞれ約30kmに位置する千葉ニュータウン（以下千葉NT）事業により整備された良好な住宅地と豊かな緑が調和したとても暮らしやすいまちです。

また、県内一の生産量を誇る特産の梨（「しろいの梨」で商標登録）に代表される農業を基幹産業とし、世界に誇れる優秀な技術を持



県内一の生産量を誇る「しろいの梨」

つ企業が立地する工業団地もあり  
ます。

このように本市は、利便性の高い立地条件に恵まれるとともに、農業、工業、商業、住宅地のバランスが取れた都市として高い潜在能力を有し、誰もが「住んでみたい」「住んで良かった」「住み続けたい」まちを目指しています。

### まちづくりの転換期を迎え

本市は、昭和54年の鉄道開通と千葉NTへの入居開始を転機に日本一の人口急増期を経て純農村から住宅都市として順調に発展してきましたが、36年が経過した現在、少子高齢化も進み、まちも成長期から維持・保全期に移り変わる中で、2度目の転換を迎えています。

このまちづくりの新たなステージにおいては、今ある地域資源を

磨き上げ、価値を高め、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要だと考えています。

### 安心安全の拠点づくり

多くの市民の願いは安心して健康に暮らすことであると考えていますが、そのためにはそれを支える仕組みや拠点が不可欠であり、拠点は分散ではなく集中している方が効率的です。

災害時には災害対策の拠点ともなる市役所の耐震不足が課題となり、その解消を図るため、市民、議会、行政が一体となり検討を進め、「既存庁舎の減築改修+新築」という新しい発想の整備計画を策定しました。

新たな庁舎には長年にわたり防犯の拠点として誘致を進めていた警察署が「分庁舎」（警察署とほぼ

同じ機能）として設置される目途が立ちました。

現在、平成30年4月の全庁舎開庁を目指し、ECI方式による実施設計に着手しています。

また、防災の拠点の消防署が市役所隣にあり、その隣の7・8haの総合公園に災害時に避難所として活用できる設備などを整備しました。

そして、高齢化に備え実施した特養などの介護施設の公募により市役所のすぐ側に介護施設を2カ所（各々病院を併設）誘致することができました。これにより、市役所周辺に行政・防災・防犯・医療・介護機能を集約し、市役所の耐震化と併せて安心安全の複合的拠点を形成していきます。

### 市民活動の活性化

本市は新興住宅地が多かったため、市有地を集会所用地として貸し出すなどコミュニティづくりに力を入れてきました。また市民参加についても市民参加条例を策定

しルールを明確にするなど積極的  
に取り組んできました。

市民活動の活性化にはリーダー  
の育成が不可欠であるため、「白  
井市市民大学校」を創設しNPO  
やボランティア活動を行う多くの  
卒業生を輩出しています。

しかし、近年の自治会は子ども  
の独立、高齢化、未加入者の増加  
などにより体力が落ちてきたこと  
から、隣接する自治会同士で助け  
合う仕組みが必要と考え、小学校  
区単位での自治連合会化を進め、  
単位自治会と併せて重層化するこ  
とで相互の交流と活性化を図り、  
安心して暮らせる仕組みを創出し  
ています。今後市民団体とのマツ  
チングも進めていきたいと考えて  
います。

また、新庁舎に市民活動の拠点  
となる市民活動推進センターを移  
設します。

### 持続可能な発展を目指して

将来人口や歳入の減少が予測さ  
れる中、持続ある行政運営を行う  
ことが最大の課題です。

これまで事務事業評価や事業仕  
分けなども取り入れ不断の行政改  
革に取り組んできましたが、それ

でも限界にきています。

このため、本年4月に行政経営  
改革課を新設し、持続可能な行政  
運営を推進するための基本方針や  
公共施設等総合管理計画の策定を  
進めています。

これまで以上に民間の優れた経  
営理念や手法を取り入れながら、  
市民にとって最適な施策・事業を  
選択する「行政経営」の視点で行  
政全般の総点検を行い、選択と集  
中を図り異次元の行政改革に正面  
から取り組んでいきます。

そして、本市の貴重な資源であ  
る人・地域・豊かな緑が相乗効果を  
発揮し、活力に満ちた快適なまち  
を目指し、親子3世代近居の推進  
など若い世代の定住を促進して、  
まちの活力を生み出すとともに、  
農を含めた豊かな緑の環境を保全  
し、市民の暮らしの快適さを高め  
る取り組みを進めていきます。

さらに、広域的な拠点から身近  
な拠点までさまざまな拠点をつく  
り、人と人、地域と地域の交流が  
さらに活力と快適さを生み出すま  
ちづくりを進めていきます。

### 未来に向けて

私は、希望に満ちた子どもたち

に未来を託すため、数年前から市  
内の小中学校に向き、小6と中  
3を対象に社会科特別授業を行  
い、白井市の成り立ち、魅力やま  
ちづくりについて話をしています。  
子どもたちが「ふるさと白井」に  
愛着と誇りを持ち、将来一人でも  
多くの子どもが永住し市の未来を  
担ってくれることを願っています。  
先人が残してくれた、愛する  
「ふるさと白井」をさらに発展さ  
せ、次の世代に確実に引き継いで

### プロフィール

- ◆ 面積 35・48 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万3005人
- ◆ 世帯数 2万4588世帯

〔将来都市像〕ときめきとみどりあふ  
れる快適都市（次期第5次総合計画に  
おける将来像）

〔まちの特徴〕東京都心・成田空港か  
ら30km圏と立地に恵まれた住みやす  
いまちで、全国有数の梨の産地



白井市長  
伊澤史夫



〔特産品〕しろいの梨、しろいの自然薯、  
さつまやの大どら、落花生最中、白井  
の梨ジュース、白井ロール  
〔観光〕しろい七福神、今井の桜、白  
井市文化センター プラネタリウム、  
白井そろばん博物館、折立菖蒲園  
〔イベント〕しろいふるさとまつり、  
白井梨マラソン大会、しろい桜まつり、  
しろい七福神・菖蒲まつり



小学校での市長特別授業

いくことが私に課せられた使命で  
あると考え、その礎を築いていき  
たいと考えています。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、  
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

## わが

## 伊豆半島の小さなまちに『国宝』、そして『世界遺産』が

## はじめに

伊豆の国市は、伊豆半島北部に位置し、平成17年4月1日に、日本一良質な温泉を持つ伊豆長岡町、歴史と文化財の宝庫であり農業も盛んな葦山町、そして商工業で発展を遂げた大仁町の3町が合併して誕生しました。

伊豆の国市は、日本史の大きな転



“富士山”と“葦山反射炉”  
同時に眺めることができる二つの世界遺産

換点に出会える浪漫のまちです。この地に配流された源頼朝が、伊豆の豪族北条時政の助力を得て挙兵、平家打倒を果たした後に開いた鎌倉幕府草創の地であり、戦国時代には関東に覇を唱え、北条五代100年の礎を築いた北条早雲が終生の居城とした葦山城のあった地でもあります。武家政治が終焉する江戸時代末期の幕政の中心人物で、日本を欧米列強の侵略から守るため品川沖に砲台を築造し、その大砲を製造するために葦山反射炉を築いた葦山代官江川太郎左衛門英龍(号・坦庵)が、広く世界を視野に入れ、後の日本を背負って立つ若き俊秀たちを育てたまちでもあります。

**世界遺産『葦山反射炉』と  
国宝『運慶作諸仏』**

本年7月5日、「明治日本の産業

革命遺産」の構成資産として、葦山反射炉が世界文化遺産に登録されました。「地域の宝」が「世界の宝」になったわけですが、同時に、先人たちが守り続けてこられた「宝」を、将来にわたり守り続けていくことを世界に対し約束したこともあります。今後は、葦山反射炉の管理保全を第一としながら、ガイダンス施設、駐車場などの整備、富士山と葦山反射炉の二つの世界遺産を一望できる展望台の整備などを行ってまいります。また、平成25年6月には、願成就院の「運慶作諸仏」が「国宝」に指定されており、「彫刻」では中部地方初の国宝指定です。ほかにも国指定史跡や重要文化財が点在する本市は、駅前新たな観光案内所を整備するとともに、史跡巡りシャトルバスの運行や、専任

の歴史ガイドの充実など、観光客や来訪者へのおもてなしの充実を図ってまいります。

※葦山反射炉は、鉄などの金属類を溶かし、大砲を作るための溶解炉です。日本の近代化の第一歩を示す建造物であり、実際に大砲を製造した反射炉としては、国内で唯一現存するものです。

※願成就院(真言宗)は、1189年(文治5年)、北条時政が源頼朝の奥州討伐の戦勝を祈願して建立した寺院です。

**交流人口拡大に向けた  
観光振興と地域活性化**

1300年の歴史がある伊豆長岡温泉は、全国有数の温泉地の一つですが、近年は宿泊客がピーク時から大幅に落ち込み、観光振興は市としても大きな課題の一つであります。その対策として、既に全国各地で話題となっている「ふるさと納税寄附金」に対する返礼として、宿泊施設などで利用できる「感謝券」を贈る



清流 狩野川沿いを走る100kmサイクリング

制度を本年7月から始めました。1万円以上の寄附を行った市外在住者が対象で、50万円を上限に、寄附金の半額相当の感謝券を贈るといふものです。登録している市内宿泊施設と、市内に所在する順天堂大学医学部附属静岡病院の間ドック一泊コースで使用できるようになっております。まずは本市を訪れていただくことで、本市の魅力を理解していただき、再び訪れていただけることを期待しております。

また、地方創生・人口減少対策として、若年世帯の転入世帯増加を誘引するため、県外からの若年世帯定住者への住宅取得に対する支援をまいります。子どもたちや若い人たちが増えることで、地域に元気が生まれ、支えられます。この支援制度を

利用して多くの若年世帯が定住し、子どもたちの元気な声が、地域の活性化につながるものと期待しております。

### 誰もが暮らしやすい地域社会へ

私の信念であります「いのち守りたい、赤ちゃんからお年寄りまで」を具現化する施策として、本年4月に、福祉事務所に「保健福祉・子ども・子育て相談センター」を開設いたしました。これはさまざまな問題を抱える家庭の増加などにより、これまで以上に所管部署の連携が求められることから、保健福祉に関する市民のさまざまな相談について、窓口を一本化したものであります。また、支援が必要な障がいのある子どもへの通所支援、放課後などデイサービスや相談体制の充実を図るため、児童発達支援センター「きららか」を、本年4月に開所いたしました。これら二つの開設・開所により、保健福祉サービスのさらなる充実を図ってまいります。このほかにも、妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援を充実させる

ため、携帯電話やスマートフォンで利用できる「育児応援モバイルサイト」の開設、女性の就業促進の一助となるよう子育て支援センターの土曜日開所、放課後児童教室の小学校4年生までの受け入れの拡充など、女性が活躍できる環境づくりに取り組んでおります。

### おわりに

『里はまだ夜深し 富士の朝日

### プロフィール

- ◆ 面積 94・71 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万9795人
- ◆ 世帯数 2万836世帯

〔将来都市像〕自然を守り、文化を育む、魅力（ゆめ）ある温泉健康都市  
 〔まちの特徴〕「農業・商業・観光」の調和のとれたまち。

〔市町村合併〕平成17年4月1日、伊豆長岡町・韭山町・大仁町と新設合併  
 〔特産品〕いちご、みかん、ミニトマト、



伊豆の国市長 小野登志子



柿、メロン、スイカ、大根、鮎、ジャム、温泉まんじゅう  
 〔観光〕韭山反射炉、江川邸、願成就院、蛭ヶ島公園、いちご狩りセンター、みかん狩り農園  
 〔イベント〕伊豆の国時代まつり、源氏あやめ祭、ぬえばらい祭、パン祖のパン祭、狩野川100kmサイクリング

影」と、閉ざされた世を嘆かれた垣庵公。江戸時代末期に、既に世界を視野に入れた考えは、200年の時を超え、私たちに引き継がれました。地域の宝である子どもたちが、世界に目を向け、この地より羽ばたくことを願い、その道しるべとすべく、グローバルな人材交流・教育を、この小さなまちから発信してまいりたいと思います。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「日本一楽しく・住みよいまち」を 目指して

### はじめに

豊見城市は沖縄本島南部に位置し、沖縄県の空の玄関、那覇空港および那覇市に隣接する、都市と自然・文化が共存するまちです。古くからその地の利と肥沃な土壌を生かし、さとうきびづくりや都市近郊型農業をまちの生業として発展してまいりましたが、昭和47年沖縄本土復帰を境に、人口増加や商工業の台頭など、急激な都市化や産業構造の変化などを経験し、平成14年4月に豊見城村から豊見城市への市制施行を実現してまいりました。現在、市沿岸部を中心に、臨空を生かした観光関連産業の振興をはじめとし、市内陸部の都市開発に積極的に取り組み、人口や企業数は堅調に増加を続け、県内外から注目されているまちです。

### 子育て・教育の充実で「とみぐすく」を元気に！

平成22年の国勢調査において、沖縄県内で最も人口増加数の多い市町村となり、年少（0～14歳）人口割合の高さでは全国で5位となるなど、地域の活力と成長力の維持・発展が期待されております。同時に、子育て世帯の割合が高いことから、子育てと教育の充実には市民から強く期待された状況にあります。中でも待機児童の解消は、市長就任直後の大きな課題の一つでもあったことから、法人立認可保育園の増・改築に伴う定員の増、分園設置による定員の増、既存保育園の定員見直し、定員の弾力化など、あらゆる観点から保育所定員枠を拡充する施策を展開してまいりました。現在、認可保

育所の定員枠は毎年増加を続けており、厳しい財政状況にある中、待機児童解消策への強化は、豊見城市の重点施策に位置付けられております。

子育て世帯への負担軽減を図るため、子ども医療費助成の対象年齢拡大を図り、入院医療費の助成対象を平成23年7月から中学校修了前まで拡大したほか、通院費の助成対象を小学校就学前までの拡大を目指し、取り組んでいるところです。

県内で最も人口増加数の多い歓迎すべき環境は、児童生徒の増加に伴う学校過密校の問題にも発展しましたが、厳しい財政状況にある中、市長就任後の5年間で市立小学校および幼稚園に関しては、それぞれ2つの新設校を建設しております。また、夏場において特に暑

い教室や小学校1年生教室並びに中学校3年生教室へ優先的に冷房機の設置を行ったほか、市内中学校の全教室へ電子黒板と電子教科書の導入を図るなど、諸施策を展開してきました。こうした施策は全国学力テストにおける子どもたちの躍進が目に見える形となり、大きな成果が得られております。

### 経済・雇用の拡大で「とみぐすく」を元気に！

本市は沖縄県内有数の農産物の産地であり、葉野菜を中心に、トマト、ゴーヤーなど新鮮野菜が県内外に出荷されております。また、マンゴーの栽培では沖縄県の拠点産地第1号に認定されるとともに、全国で初めて「マンゴーの里」宣言を行うなど、マンゴーの一大産地化に向け取り組んでおります。最近では豊見城産マンゴーキャラクター「アゴマゴちゃん」の誕生により、産地ブランド化の強化に取り組み、県内外に向け販売促進活動を実施しております。

今では県内外から高い評価も得られ、都市近郊型農業の地域特性を生かした「とみぐすくブランド」の確立に向け、さらなる流通の強化を推進しております。

那覇市との境界付近に位置する「豊見城城址公園」跡地およびその周辺は、都市圏域に残された貴重な緑地と歴史文化資源が多く分布する特色を持ち合わせていることから、この地を自然環境・歴史文化・観光が調和する公園施設として整備に取り組んでおります。

この施設内には、沖縄県が計画する、沖縄を発祥の地とした伝統空手の保存・継承・発展を目的とした「空手会館」や伝統工芸の継承・発展、流通を目的とした「工芸の杜（仮称）」の誘致を積極的に推進し



7月15日「マンゴーの日」セレモニー（左端：アゴマゴちゃん）

たところ、これら施設の誘致が決定し、現在その整備が着々と進んでいるところです。

那覇空港に隣接する島「瀬長島」は、沖縄県観光振興地域に指定された後、市内外から注目を浴びていたものの、最近まで観光地としての機能や整備が十分ではありませんでした。島の現況および利用者や専門家の意見から整備課題を整理し、自然環境や歴史文化を生かした新たな観光拠点として整備を進めたところ、現在では温泉ホテルや複合施設の商業施設がオープンするなど、官民一体となった新しい観光スポットとして注目されております。

### さらなる成長を目指して

東洋経済新報社調査の都市データーランキング「成長力ランキング」では常に上位に位置し、また、平成26年の学研パブリック（株）調査の「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」では、九州・沖縄エリアで第2位となりました。市内には総合病院等をはじめとした医療施設や商業施設など日常生活に関連する施設が多数整備されており、沖縄県内最大級の人工ビーチ・豊

崎美らSUNビーチや県内唯一のアウトレットモール「あしびなー」など、その魅力から県内外の移住者や観光客が増加しております。今後も、那覇空港に隣接する沿岸地域への観光関連施設や国際製造・物流企業などの誘致、さらに市内陸部の中心市街地の整備など、さらなる都市形成の発展を職員と一致団結して、「日本一楽しく・住みよいまち」を目指し、取り組んでまいります。

### プロフィール

- ◆ 面積 19・60km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万2050人
- ◆ 世帯数 2万3817世帯

〔将来都市像〕ひと・そら・みどりがつなぐ響むまちとみぐすく

〔まちの特徴〕都市と自然が織りなす成長力伸びゆくまち豊見城

〔特産品〕泡盛（忠考）、琉球漆器、ウージ染め、マンゴー、トマト、葉野菜



豊見城市長  
宜保晴毅



〔観光〕旧海軍司令部壕、瀬長島、真玉橋、豊崎海浜公園、豊崎美らSUNビーチ、沖縄アウトレットモール「あしびなー」

〔イベント〕とみぐすく祭り、とみぐすく産業フェスタ、全沖縄子どもエイサーまつり、豊見城ハーリー大会、美らSUNビーチイルミネーション



新たな観光スポット「瀬長島」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。